

三洋化成のCSR活動と 化学物質管理の取り組み

2014.10.20

三洋化成工業(株) 名古屋工場
環境保安室 近藤 博文



1. 会社概要
2. 名古屋工場概要
3. 三洋化成のCSR
4. 化学物質管理
5. 社外からの評価



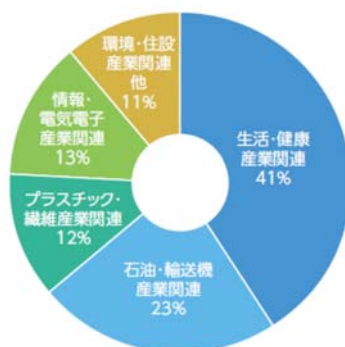
- ・創 立 1949年
- ・資本金 130億5100万円
- ・売上高 単体 1021億円、
連結 1652億円 (2014年3月期)
- ・従業員 1917名
- ・本 社 京都市東山区
- ・工 場 名古屋、鹿島、京都、衣浦
- ・研究所 京都(東山区、西京区)
- ・関係会社 国内9社、海外14社



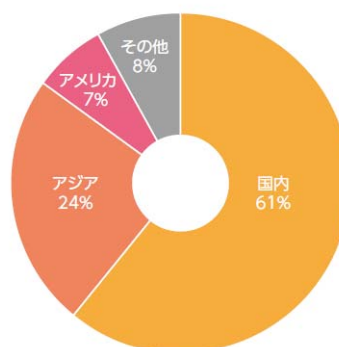
事業内容

生活・健康産業関連	医薬・化粧品原料、家庭用・工業用洗剤原料、乳化・分散剤、高吸水性樹脂、臨床検査薬など
機械・輸送機産業関連	ポリウレタンフォーム用原料、ポリウレタン樹脂、潤滑油・燃料油添加剤、水溶性切削油、デザインモデル製作用盛付樹脂など
プラスチック・繊維産業関連	永久帯電防止剤、顔料分散剤、樹脂改質剤、塗料用樹脂、ポリウレタンエラストマー原料、繊維用界面活性剤、合成皮革用ポリウレタン樹脂など
情報・電気電子産業関連	トナー中間体、トナーバインダー、UV・EV硬化樹脂、コンデンサ用電解液、半導体加工用薬剤など
環境・住設関連、その他	土木・建築用薬剤、廃水処理剤、ポリウレタン断熱材原料、接着剤、技術収入など

分野別売り上げ



地域別売り上げ



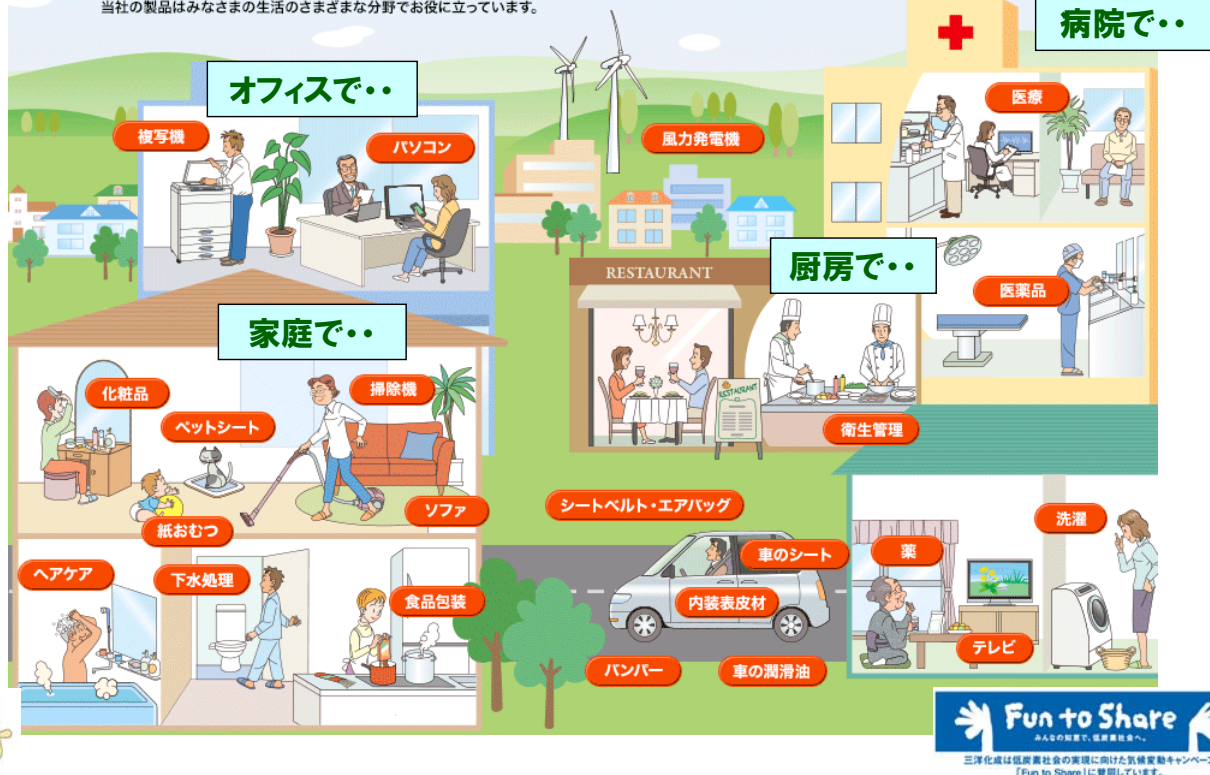
製品数
約2300(単体)
多品種少量生産



あつ

こんな所にも三洋化成

パフォーマンス・ケミカルスは、「お客さまが必要とする機能を発揮する化学品」です。
当社の製品はみなさまの生活のさまざまな分野でお役に立っています。



所在地 愛知県東海市新宝町31-1
 操業開始 1966年
 敷地面積 約10万m²
 従業員 約220名
 生産能力 22万トン

ISO 9001取得 1998年
 ISO14001取得 2001年

SDPグローバル㈱、サンノプロ㈱、名古屋
 三洋倉庫㈱を一括して取得



第1種エネルギー管理工場
 高圧ガス製造所
 危険物取扱所



生産品目数： 約740品目

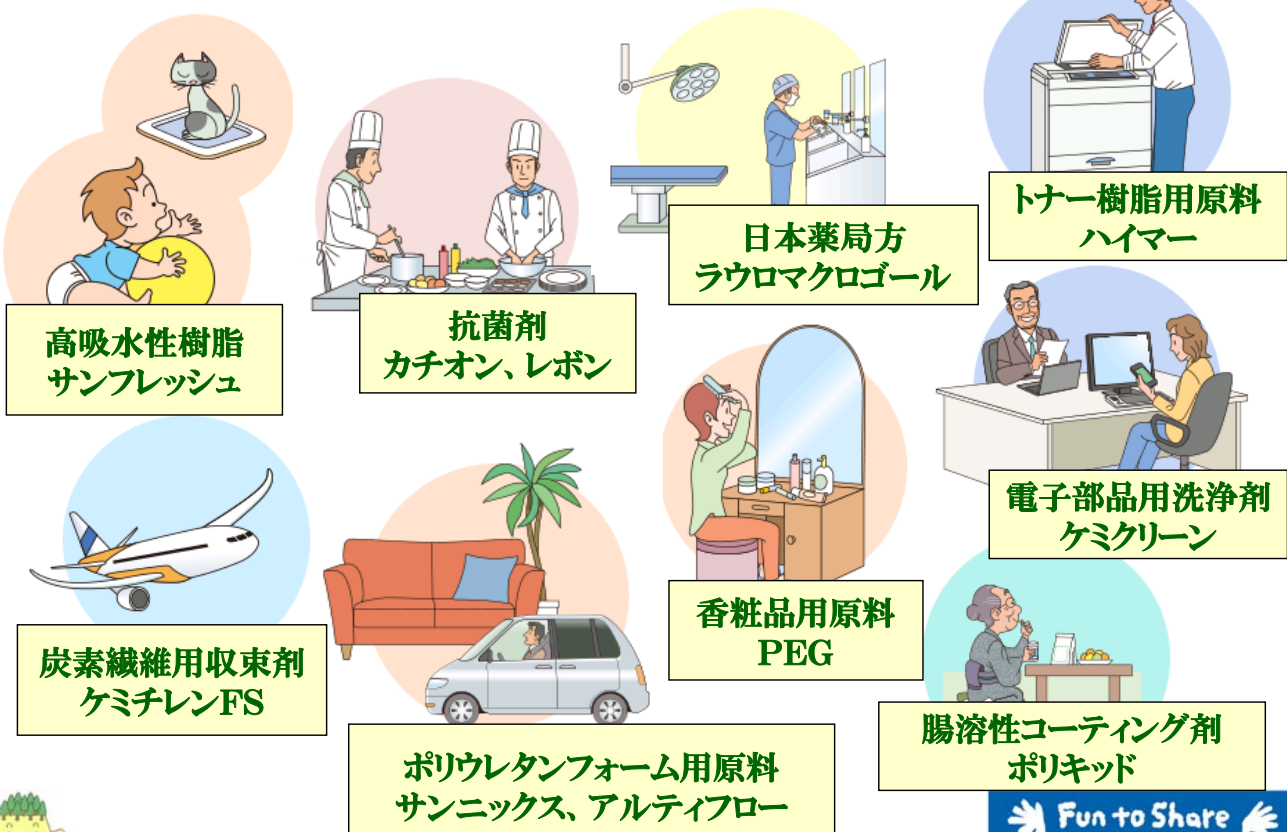
第1～第4有機合成プラント、合木プラント、
AOAプラント、オリゴマープラント、SAPプラント

生産品

界面活性剤、ウレタン樹脂、電解液、UVモノマー、
ウレタンフォーム用原料、ウレタンビーズ、吸水性樹脂など

主要原料

EO、PO、アクリロニトリル、スチレン、ビスフェノールA、
DMF、MDI、アクリル酸 など



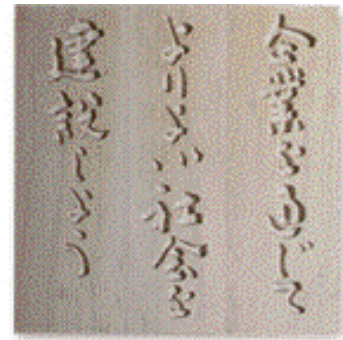
CSRのあゆみ

社是：企業を通じてよりよい社会を建設しよう

- 1955年 社是制定
- 1986年 環境保安基本規定制定
- 1991年 PL基本規定制定
- 1996年 RC活動開始、RCグループ設置
- 2000年 環境報告書発行

- 2003年 企業倫理憲章制定
コンプライアンス委員会設置
執行役員制度導入
- 2005年 内部統制システム構築開始
- 2007年 従業員行動指針制定

- 2009年 CSR委員会・CSR推進部発足、
CSRガイドライン制定
- 2013年 CSR推進部にRCグループを統合



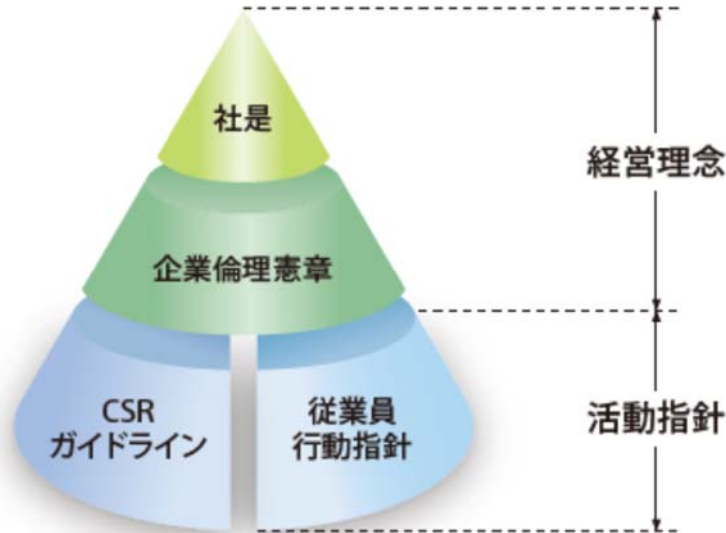
定義

CSR活動は、社会の要請や期待に応え、
社是の実践を通じ
持続可能な社会の創造に貢献することを
目的とする活動である。

言い換えれば・・・

パフォーマンス・ケミカルス(機能化学品)の提供を通じて
持続可能な社会の実現に向け貢献し、
社会から求められる責任を着実に果たすことで、
健全な会社として社会に認められ存続できる。





CSRガイドライン	当社グループとして組織的に取り組む活動指針
従業員行動指針	従業員一人ひとりが取り組むべき活動指針



CSRガイドライン(2009年制定)

ガイドライン項目	推進責任者
① 基本姿勢	企業倫理担当役員
② コンプライアンスの徹底	企業倫理担当役員
③ 安全・防災の徹底	環境保安対策本部長
④ 社会に貢献する製品開発促進	研究業務本部長
⑤ PLおよび品質管理の向上	生産業務本部長
⑥ 環境保護への取り組み強化	RC推進本部長
⑦ リスクマネジメント推進と内部統制システム強化	監査本部長
⑧ ステークホルダーとの対話推進	総務本部長
⑨ 人材の確保・育成と人権推進	人事本部長
⑩ グリーン調達推進	購買本部長
⑪ 社会貢献活動の推進	総務本部長

CSR委員会(委員長:社長)にて、年2回、各ガイドラインの方針、計画の進捗状況等を審議





化学の出張授業



「三洋化成の森」づくり活動
(京都府和束町)



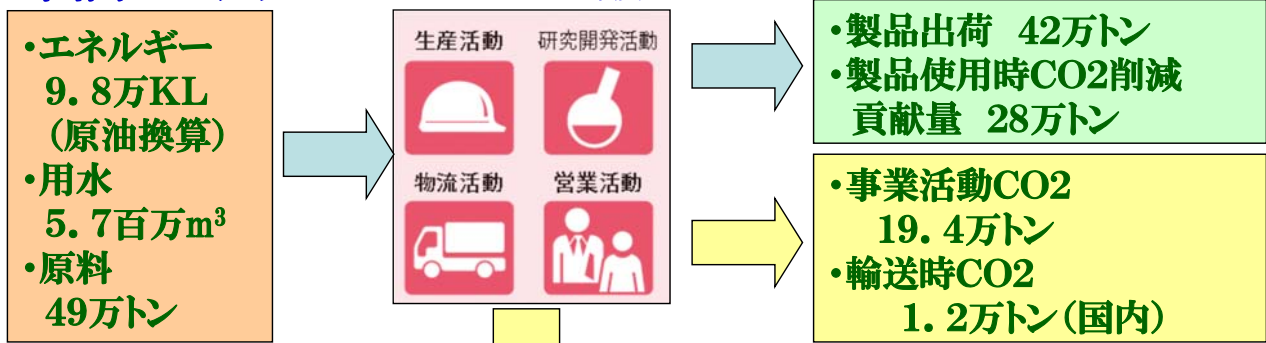
中学生の勤労体験



53[0](ごみゼロ)活動



国内のマテリアルフロー (2013年度)



廃棄物	大気	水域
<ul style="list-style-type: none"> 発生 4.9万トン リサイクル 2.4万トン 埋立 20トン 	<ul style="list-style-type: none"> NO_x/SO_x/ばいじん 101/4/10トン VOC 263トン (内、PRTR対象 (72トン)) 	<ul style="list-style-type: none"> 排水 5.4百万m³ COD 173トン PRTR対象 1.4トン



製品数 : 約2300
原料数 : 約1500
取扱う化学物質 : 約2100 (CAS No単位)
内、原料起因 約1400
内、製造物 約 700

危険物 : 1~6類 等
特化物 : アクリロトリル、トリレンジイソシアネート、エチルベンゼン 等
有機溶剤 : イソプロピルアルコール、酢酸エチル、DMF 等
発ガン物質 : エチレンオキシド、ホルムアルデヒド 等
変異原物質 : プロピレンオキシド、ビスフェノールA型エポキシ樹脂中間体 等
毒劇物 : 弗化水素酸、アンモニア、塩化水素 等
PRTR法対象 : 137物質使用・製造
名古屋工場は106物質



1993 ベンゼン使用廃止
1996 トリクロロエチレン、CFC使用廃止
レスポンシブル・ケア(RC)活動開始
1999 テトラクロロエチレン使用廃止、
塩素系溶剤削減プログラムスタート
2000 エンドクリン対応開始
ノニルフェノールエトキシレート削減・代替
2002 化学物質管理レベルの指針 策定
使用禁止・使用削減・適正管理・重点管理
2004 研究 安全設計内規 策定
2005 グリーン調達基準 策定 (2010年改定)
2013 鉛化合物全廃

PCB廃棄物適正保管・処理、ダイオキシン対策、
スズ化合物削減 など



化学品製造者の行なうべき化学物質管理

- 設計段階 : 有害性の高い物質の不含有・不含有、環境配慮設計
法令適合性、安全性データ確認
- 製造段階 : 排出量の削減、労働者の暴露防止(作業環境)、
事故・防災対策
- 使用段階 : 有害物質の不含有、含有量(残存量)の低減、
MSDS提供
- 廃棄段階 : 有害物質の不含有、リサイクル性

法令管理、含有管理、設計管理、組成管理、
情報管理、汚染・排出管理、暴露管理



リスク管理 : 有害性(ハザード)の度合いに応じた、暴露(排出)管理

3つの管理レベル

管理レベル	内容
レベル 1 使用禁止	事業活動での取り扱いを全面禁止する化学物質
レベル 2 使用削減	環境の観点からは全廃が望ましい化学物質で、 代替等により使用削減を推進する化学物質
レベル 3 適正管理	使用禁止物質、使用削減物質を除くすべての 化学物質で、排出・移動量の削減および リサイクルに取り組む化学物質
(レベル 3 重点管理)	適正管理物質のうち、優先して排出削減に 取り組む物質



具体的には・・・

禁止	化審法1特・旧1監、労安禁止・許可、化兵法1種、フロン類、重金属類、特定毒物 など
削減	塩素系溶剤、エンドクリン物質 など
適正管理	禁止、削減物質以外のすべて
重点管理	年間排出量が1トン以上の物質 EO、PO、アクリル酸、トルエン、メタクリル酸メチル、キシレン、エチルベンゼン、酢酸エチル など 現在19物質

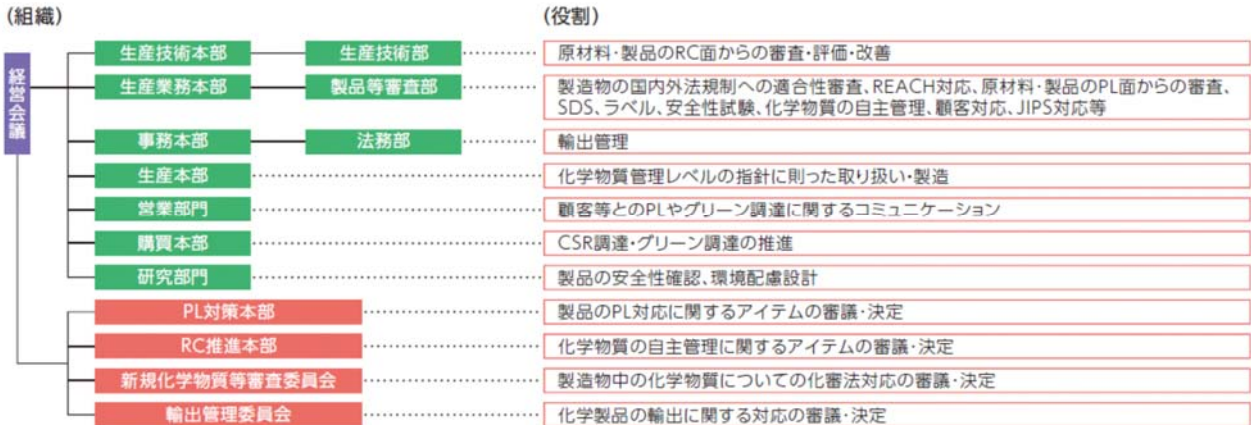


部 門	使用禁止物質	使用削減物質	適正管理物質
開 発	全面使用禁止 (サンプル入手も禁止)	①新製品には 原則不使用 ②既存品は 代替推進	排出・移動量削減及び 再利用方法等の検討
生 産		研究と協力して 使用削減を推進	①法に基づく保管・使用 ②排出・移動量の把握と 削減 ③発生した廃棄物のリサイ クル促進
購 買		グリーン調達 の推進 (メーカーに対し、情報提供及び調査書による ランク分けとランク上位社からの優先購入)	
営 業		ユーザーに対し、代替・廃止等の情報提供	

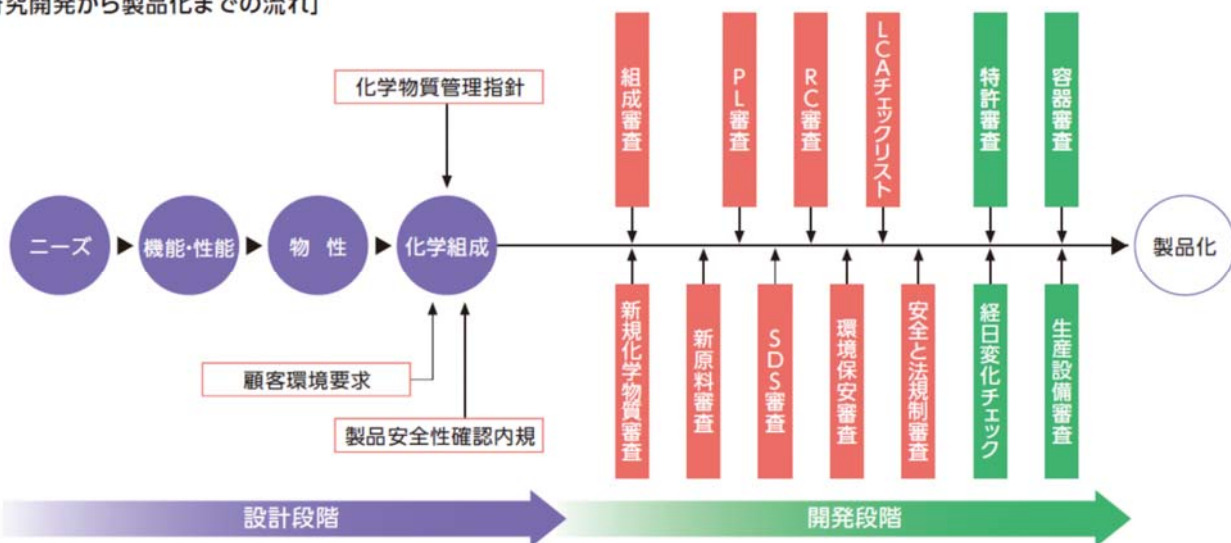
原料組成データベース
製品組成データベース
グリーン調達データベース

により組成管理



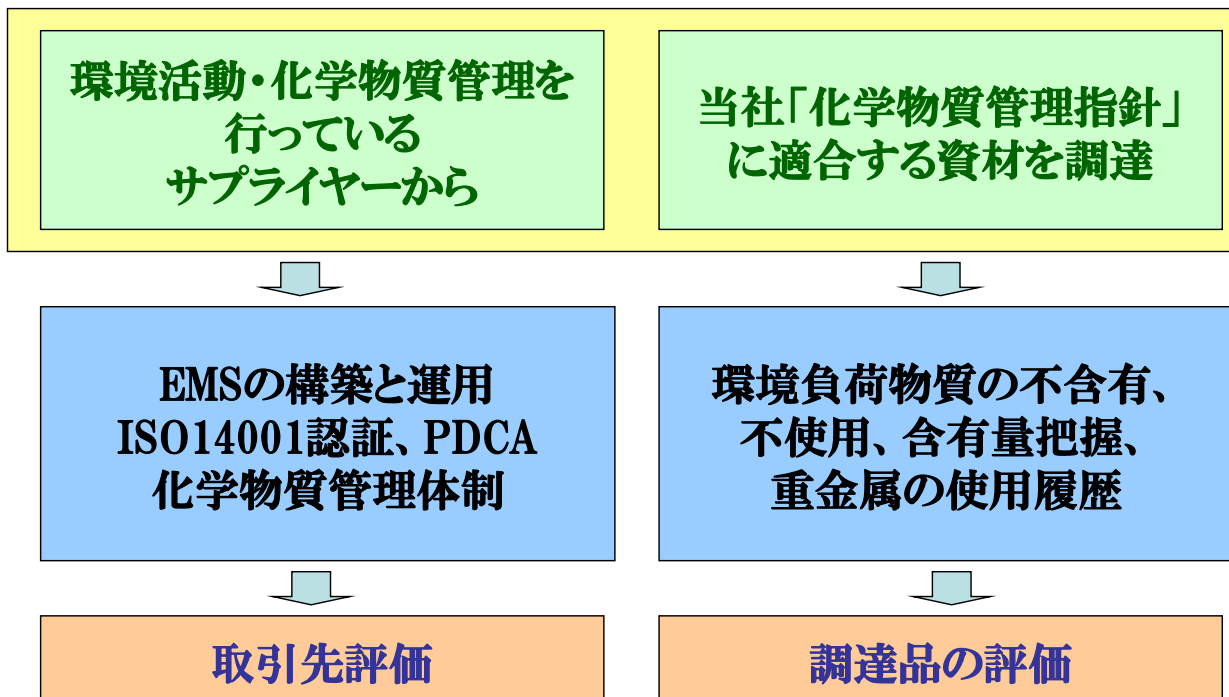


[研究開発から製品化までの流れ]



化学物質管理指針 第五条

- (1) 製品設計に当り、必要性能を満足しつつ、地球・ヒト・生態系に及ぼす有害性をできるだけ低減した化学構造となるよう設計する。
- (2) 設計した化学構造を得るには、より安全で有害性の少ない原材料を選択できるよう化学反応形態を選択する。
- (3) 製造時の化学物質の環境への排出・移動量ができるだけ少なくなるよう製造プロセスを設計する。
- (4) 製品中の不要な有害物(未反応物など)の含有量をできるだけ低減する。
- (5) 製造時またはユーザーで使用時に反応・分解等で使用禁止物質または使用削減物質を生成しないよう、化学構造・プロセスを設計する。
- (6) 環境中で生分解等により使用禁止物質、使用削減物質を生成することのないよう化学構造を設計する。



生産部門規則(化学物質関連を抜粋)

- ・静電気災害防止対策規則
- ・特定可燃性粉体の静電気災害防止対策基準
- ・可燃性液体(危険物)貯槽の気相部のシール基準
- ・化学物質管理指針
- ・PRTR法対象物質の環境への排出・移動量算定基準
- ・モノマー類保管・管理規則
- ・アスベスト含有品取扱作業規則
- ・特定熱媒油取扱作業手順 他

暴露管理、汚染(排出)管理、取扱上の安全管理、防災管理
について規則、基準類を制定



VOC定義:

大気汚染防止法: 環境に排出された際気体であるもの

当社 : PRTR法(新・旧)、日化協PRTR(新・旧)
対象物質で大気に排出されるもの

VOC排出源:

タンク(受入・貯蔵)
反応槽・配合槽
(仕込・移送・充填・圧ヌキ
蒸留・留去・乾燥・ろ過)
廃棄物処理

大防法特定施設: 該当なし

VOC排出量:

蒸気圧からの工学計算、
排ガス分析での実測



大気排出物質(VOC)

ビニルモノマー類:

アクリル酸、メタクリル酸メチル、
アクリロニトリル、スチレン等

アルキレンオキシド:

EO、PO

非塩素系溶剤:

キシレン、トルエン、イソプロ、
ヘキサン、DMF、アセトン等

塩素系溶剤:

ジクロロエタン、ジクロロプロパン
ジクロロメタン

重点管理物質

塩素系溶剤削減
プログラム



VOC削減の方策

製品設計:

使用削減物質・重点管理物質の不使用・使用削減
生産プロセス改善

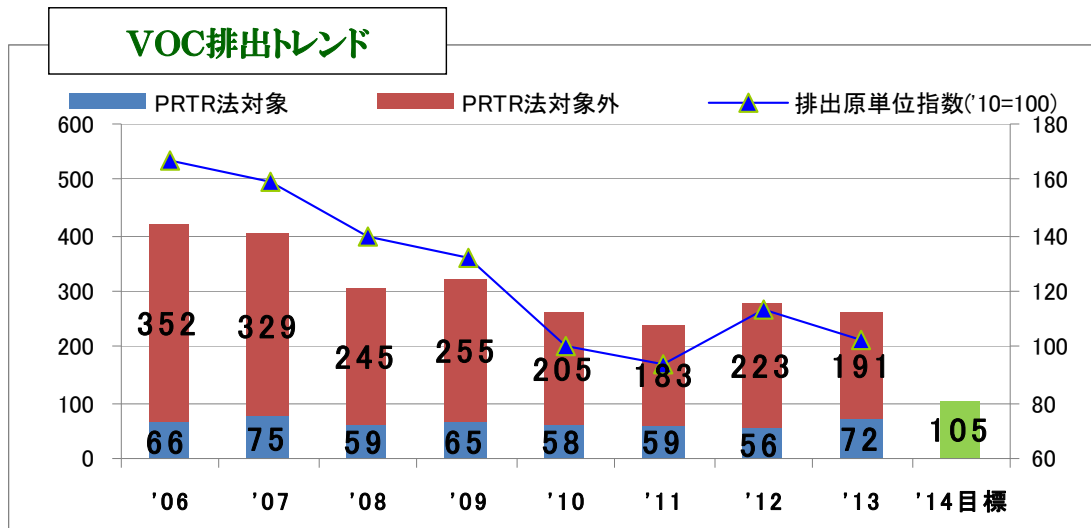
生産時:

代替溶剤、無溶剤
工程・設備改善(冷却、熱・圧力条件等)
回収・除去装置(吸着、燃焼)

廃品化

削減目標 : 2006年度比60%削減

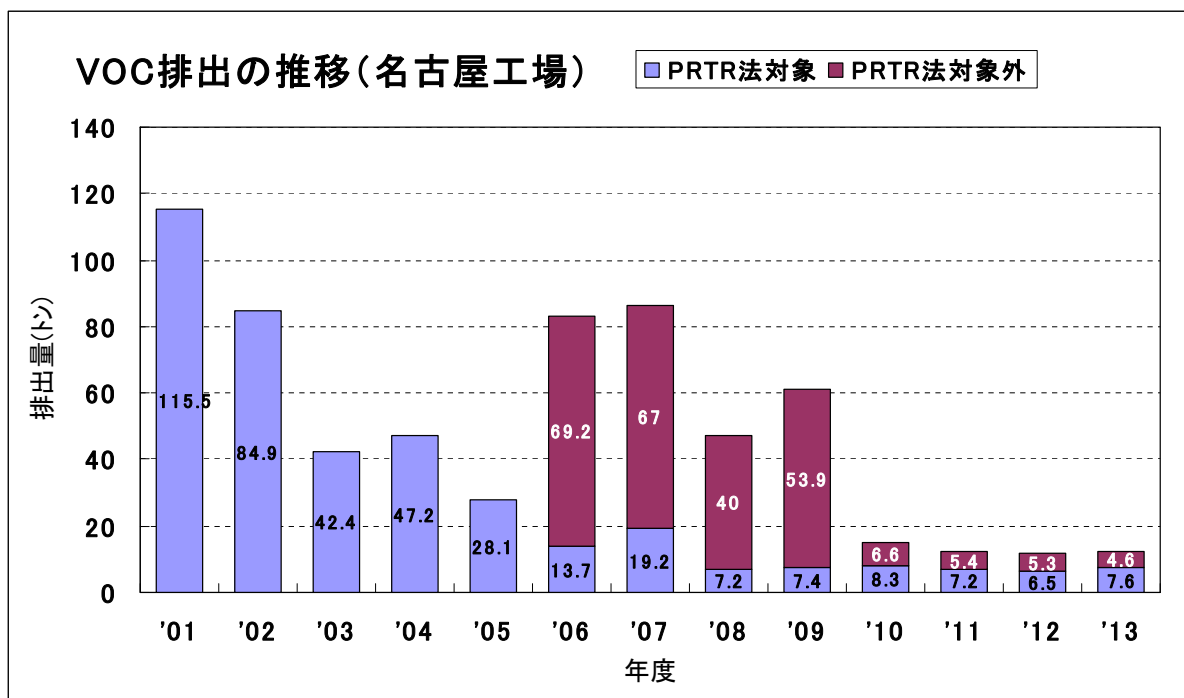




PRTR法対象物質実績(2013年)

(単位：トン)

	対象物質数	取扱量	大気排出量	水域排出量	土壌排出量	廃棄物移動量
当社	134	126,729	52.6	1.3	0	723.2
国内関係会社	53	190,902	18.9	0.1	0	10.5
合計	のべ187	317,631	71.5	1.4	0	733.7



PRTR法対象 : 106物質、取扱量 7.3万トン
 法対象外VOC : 39物質、取扱量 0.7万トン



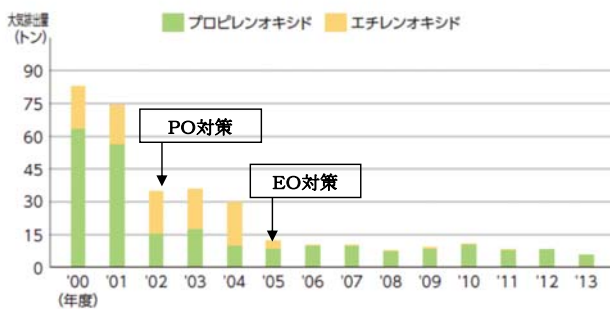
主なPRTR対応およびVOC排出削減策とその効果

実施時期(年度)	事業所	方策	効果(数値は年間削減量)
2001年	名工	プロピレンオキシド受入対策	大気排出 ▲50トン
2001-2005年	SPCC	プロセス改良	ブタジエンの大気排出 ▲1.4トン
2001-2005年	名工、鹿工	塩素系溶剤削減(処方変更、代替、廃止等)	1,2-ジクロロエタンなど大気排出 ▲7トン
2002-2004年	京工	処方改良、排ガス冷却装置設置	メタクリル酸メチル大気排出 ▲9トン
2002年	名工	代替、廃品化	フッ素水溶性塩の水域排出 ▲0.6トン
2003年	名工	VOC吸着装置設置	アクリロニトリルを主体に大気排出 ▲25トン
2004年	SCC	プロピレンオキシド排ガス燃焼処理	大気排出 ▲6トン
2005年	鹿工	処方改良	メタクリル酸メチル大気排出 ▲3トン
2005年	名工	VOC吸着装置設置	トルエンを主体に大気排出 ▲17トン
2005年	名工	エチレンオキシド排ガス処理装置設置	エチレンオキシドの大気排出 ▲20トン
2005年	SDP大	シクロヘキサン吸着・回収装置	シクロヘキサンの大気排出 ▲300トン
2006年	鹿工	冷却設備強化	メタクリル酸メチル大気排出 ▲4トン
2007年	名工	VOC吸着・回収装置設置	ジクロロプロパンなど ▲5トン
2007年	京工	VOC吸着・回収装置設置	酢酸エチルの大気排出 ▲12トン
2008年	名工	冷却設備強化	ヘキサン、メチルエチルケトン ▲12トン
2009年	名工	VOC吸着・回収装置設置	ヘキサン、メチルエチルケトン ▲45トン
2010年	京工	VOC除害装置	メタクリル酸メチル大気排出 ▲4トン
2012年	衣工	プロピレンオキシド排ガス処理装置	大気排出 ▲8トン
2012年	SCC	プロピレンオキシド排ガス燃焼処理	大気排出 ▲1.5トン
2014年(予定)	名工	プロピレンオキシド排ガス処理装置	大気排出 ▲2トン
2014年(予定)	鹿工	VOC除害装置	酢酸エチルおよびメタクリル酸メチル

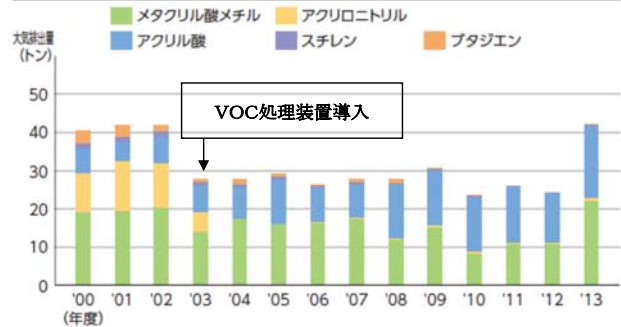


主要なPRTR対象物質の大気排出量推移

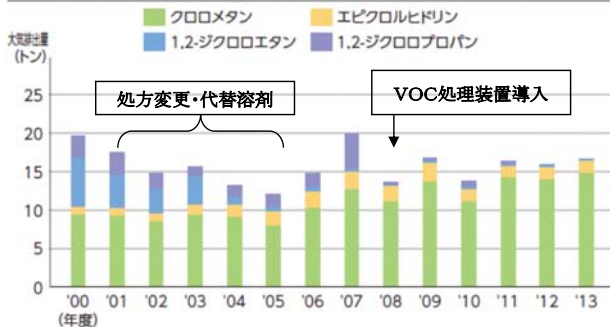
エチレンオキシド、プロピレンオキシド



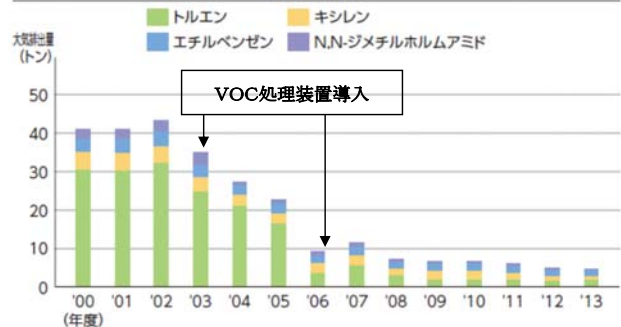
モノマー類



塩素系化合物



有機溶剤類





EOタンク排ガス除害装置
(触媒燃焼式)

有機合成プラント直燃式VOC処理装置



S-TEC 廃棄物削減の目標

S-TEC21 レベル I	2000年	埋立処分量を1998年度比半減
S-TEC21 レベル II	2001年～ 2003年	埋立処分率<0.5%
S-TEC21 レベル III	2004年～ 2006年	埋立処分率<0.1%
S-TEC21 TM6	2007年～ 2010年	埋立処分率<0.1% 廃棄物発生原単位▲19% (06年度基準)
S-TEC25	2011年～ 2014年	埋立処分率<0.01% 廃棄物発生原単位▲15% (10年度基準)

リサイクル

リデュース

Sanyo Tactics for Eco Challenge

*埋立処分率=埋立処分量/廃棄物発生量
廃棄物発生原単位=廃棄物発生量/製品生産量



廃棄物削減チャレンジ

チャレンジ契約制度

社員がチャレンジ目標とチャレンジ期間を自主申告して社長と契約を
交わし、指名した数名のパートナーと協力しあって目標達成に
チャレンジする社内制度。
成功時の報賞、失敗時のペナルティーも自主申告。

廃棄物削減チャレンジ

目 標 : 廃棄物処理費を2006年度比40%以上削減
評価期間: 2009年1~3月
対 象 : 名古屋工場、鹿島工場、京都工場
結 果 : 3工場とも成功 ; 40~60%削減
報 賞 : 国内温泉旅行



廃棄物削減チャレンジ 取組み内容

方策

- ① 減容化
 - ・汚泥脱水
 - ・廃油の濃縮
 - 専用装置、遊休・低稼働装置の利用、廃熱利用
- ② 原燃料に有効利用
 - ・回収溶剤、回収モノマー、回収水を精製・再利用
 - 蒸留精製、膜ろ過など
 - ・回収油分から再生燃料を自製 → 社内の燃料として使用
- ③ 有価物として売却
 - ・回収溶剤、回収モノマー等の売却
- ④ 排水として処理
 - ・排水処理、COD管理のもと下水へ放流



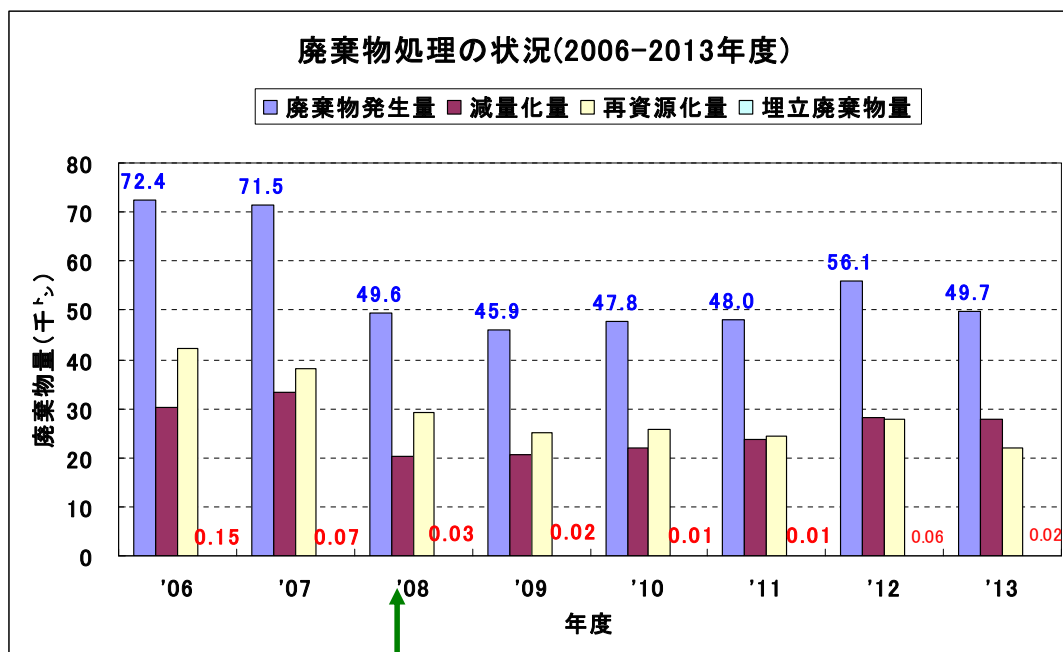
廃棄物削減チャレンジ 取組み内容

方策

- ⑤ プロセス改善による排出削減
 - ・洗浄工程改善
洗浄方法見直し、洗浄水の再利用
 - ・排水処理薬剤の見直し
 - ・ろ過助剤投入量削減
 - ・装置洗浄の最適化
洗浄省略、生産順序、洗浄剤使用量等
- ⑥ 製品収率向上
 - ・サンプリング・分析工数の適正化(サンプリングロス削減)
 - ・充填ハナ切りロスの削減



廃棄物削減チャレンジ 結果



チャレンジ実施



自製再生油を使用した廃液濃縮装置

事例紹介

廃液濃縮装置

廃液を加熱して濃縮・乾固するとともに
発生する排ガス(VOC)を燃焼処理して無害化

処理能力: 15トン/日(5000トン/年)

自製再生油

原材料として使用できなくなった回収物、油分を燃料化

分別した不要物から、
発生数量、性状(粘度、相溶性、沈降物)、燃焼性等
を考慮して組み合わせ燃料を自製

→ 廃液濃縮装置の燃料に使用 年間 ~800トン~



自製再生油を使用した廃液濃縮装置



同じ規模の装置が2基あり、その外観から
「トーマス」「パーシー」の愛称で親しんでいます。



他社事故事例の横展開

アクリル酸タンクの爆発事故(2012年9月)



アクリル酸は、当社のメイン原料のひとつであり、社内でも多量に貯蔵しているため重点テーマに位置づけ調査・検討を行った。

<対策>

- ① タンクの実態調査とその安全対策の妥当性評価
- ② 追加対策の必要性調査
- ③ ケミカルストッパー投入装置等異常発生時のハード対策と処置マニュアルの点検等を確認

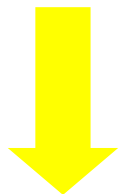


- ④ アクリル酸以外のモノマー類についても同様の調査・検討を実施
- ⑤ モノマー類の保管・管理規則を改定し各部署で勉強会を実施

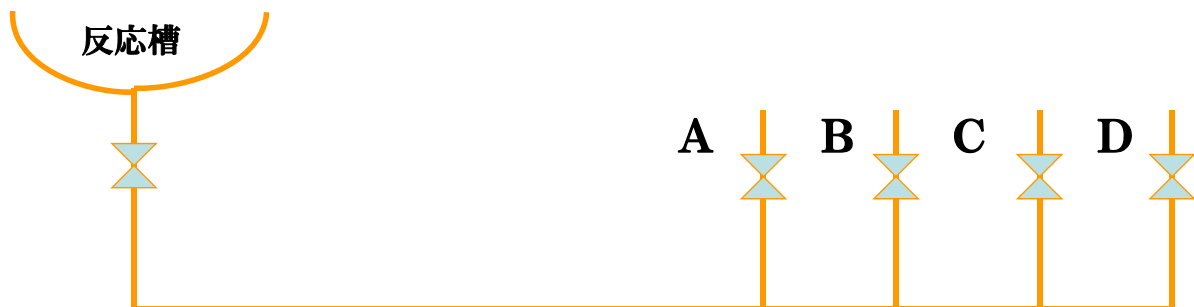


漏洩防止

バルブ閉め忘れによる流出事故発生(2012年8月)



「一つのバルブしか開にできない仕組み」はバルブ操作ミス防止に有効であると考えた。



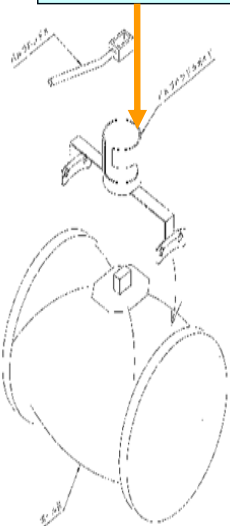
バルブABCDの内、一つのバルブしか開にできない仕組み



<対策>

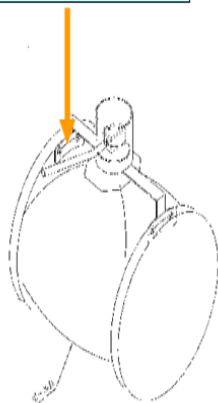
「一つのバルブしか開にできない専用治具」を取付ける。

専用治具①



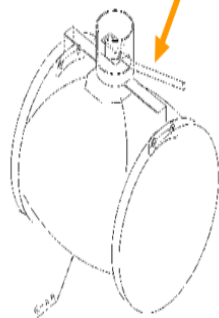
治具取外し状態

閉の状態
ハンドルが取外せる



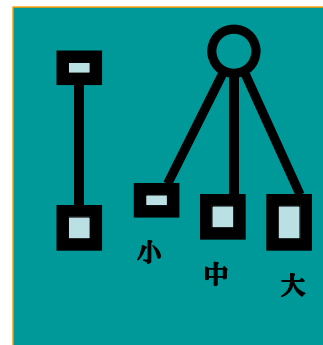
バルブ「全」の状態
バルブハンドルは取り外せる

開の状態
ハンドルが取外せない

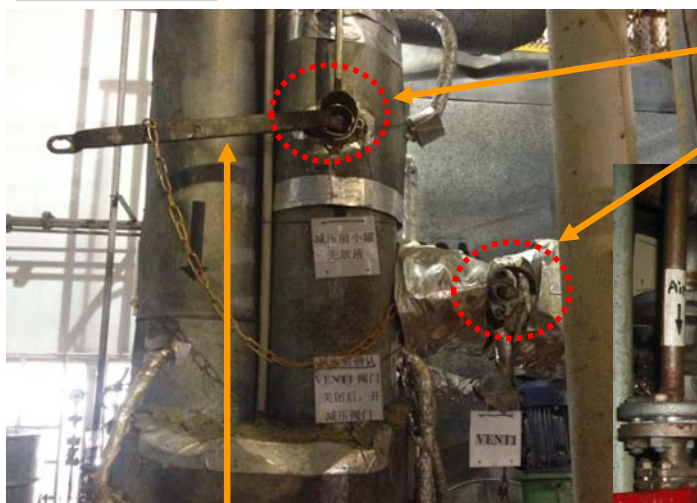


バルブ「開」の状態
バルブハンドルは取り外せぬ

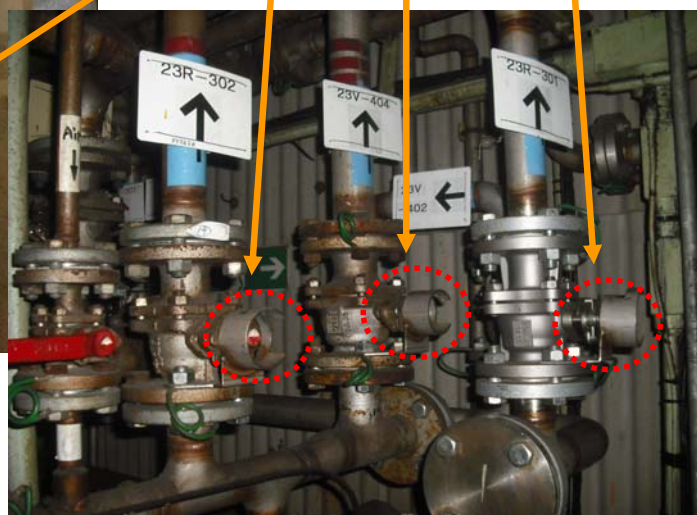
専用治具②



実施例



専用治具②



バルブ位置



地震対策

緊急地震速報、地震計自動放送

- 環保室に設置している地震計が震度3以上を検知すると自動放送で「設備点検の指示」が発令される。
- 危険性の高い反応設備は震度5以上で自動緊急遮断する。



地震を想定した保安防災訓練

- 総合防災訓練
- 交替制勤務者防災訓練
- 緊急地震速報訓練



<地震情報の伝達>



保護具着用基準

1. 製造所内での、ヘルメット・保護メガネ・安全靴の着用義務
2. 製造マニュアルに定められた保護具の着用

保護具	着用作業	保護具	着用作業
軍手	常時着用	つなぎ服	粉体物等の取扱作業
安全メガネ	常時着用	ゴム前掛け	強酸・強アルカリ・アミン等の取扱作業
ヘルメット	常時着用	有機ガスマスク	有機溶剤取扱作業
安全靴	常時着用	酸・アルカリガスマスク	酸・アルカリガス発生作業
ゴム手袋	危険物取扱作業	空気呼吸器	酸欠作業
ゴム長靴	スチーム等取扱作業	安全帯	高所作業
全面メガネ	常時装備 高温・飛散物取扱作業		



マニュアルの危険表示

安全情報		ノウハウ	その他 関連資料	その他注意事項
薬傷	設備			
				保護具 ゴム手袋、全面メガネ
DBU	高温注意			

* 製造マニュアルの一部を抜粋

製造マニュアルには「安全情報」の項目を設け、薬傷の危険のある作業にはGHS表示をしている。

また、「その他注意事項」の項目には、作業ごとに使用する保護具を表示している。



ライセンス制度

オペレーター基本ライセンス

基本編

安全編

新人を対象に、オペレーションに関する基本事項を教育実施し習得度を、テストにて評価し、合格者にライセンスを与える。

プラントライセンス

オペレーターの技術の習得度に応じて、各パートのオペレーション技術をテストし合格者にライセンスを与える。



教育

・危険物分類別にビデオ教育の実施

・MSDS等を用いた勉強会の実施

・危険物取扱者(乙種第4類)の取得義務付け

・爆発系装置を用いた、溶剤爆発及び粉じん爆発の疑似体験



JIPS : 化学物質の安全性データ収集とリスク評価及び公表

Japan Initiative of Product Stewardship

JIPS:日本化学工業協会の指導する、化学物質安全性情報の収集・公表活動
年間1ton以上製造する化学物質について2020年までに安全性データ収集と評価を行い、公表。

2012年度:
ノニフェノールエトキシレート(エンドクリン物質)について
安全性要約書を3文書作成・公表
2013年度:
C12-15アルコールエトキシレートほか5文書作成・公表
当社WebおよびICCA(国際化学工業会協議会)Webサイトに掲載



「はたらき」を化学する

HOME

ENGLISH

資料請求

事業所案内図 | 出版物 | サイトマップ

- 企業情報
- 製品情報
- PR情報
- IR情報
- CSR
- 研究・生産体制
- 採用情報

HOME > 製品情報 > 主要製品情報 > 安全データシート(SDS)

製品情報

主要製品情報

- 主要製品情報一覧
- 生活・健康産業関連製品
- 石油・輸送機産業関連製品
- プラスチック産業関連製品
- 繊維産業関連製品
- 情報・電気電子産業関連製品
- 環境・住設産業関連製品他
- 安全データシート(SDS)

製品リスト

- 製品リスト一覧
- 塗料・インキ用商品版
- 樹脂・ゴム用商品版
- 接着剤用商品版

主要製品情報

安全データシート(SDS)

SDS検索

製品名別(五十音別)

製品名別(五十音別)
文字列検索

ア〜オ

ア〜オファーマー (8件)

- ア〜オファーマー TA-1204H
- ア〜オファーマー TA-1207H
- ア〜オファーマー TA-1327E
- ア〜オファーマー TA-1327H
- ア〜オファーマー TA-1460E
- ア〜オファーマー TA-1460H
- ア〜オファーマー TA-1800E
- ア〜オファーマー TA-1800H

アクリレート (1件)

アクルーゴ (23件)

イオネット (32件)

ウールミン (1件)

エクスセルフロ (1件)

エコノール (4件)

エステル (1件)

エボキシ (1件)

ホームページに
汎用品のSDSを
公開



日経 環境経営度ランキング

1999年 294位 → 2011年 83位 → 2013年 136位
 化学中 45位 → 10位 → 13位

東洋経済 CSR(企業の社会的責任)評価 2013年

人材活用 AA
 環境 AAA
 企業統治 AAA
 社会性 AA

環境省 環境コミュニケーション大賞 奨励賞 (CSRレポート2012)

日化協 RC賞 (2013年)

廃棄物削減チャレンジ活動 (当社3工場)



三洋化成 工業株式会社 | 「はたらき」を化学する | HOME | ENGLISH | 資料請求 | お問い合わせ

事業所案内 | 出版物 | サイトマップ

企業情報 | 製品情報 | PR情報 | IR情報 | CSR | 研究・生産体制 | 採用情報 | 調達情報

“はたらき”を化学する
 “Performance” Through Chemistry

“人”中心の経営の推進を通して絶えず挑戦し、逞しく成長していきます。
 独自の高付加価値製品の研究開発に注力し、また、安全の徹底と環境に配慮した
 事業活動を積極的に行うことに取り組みつづけます。

製品検索

はたらきで探す
 用途で探す
 組成で探す

フリーワード検索

検索

京を歩けば

多彩な職能陣が自らの足でたどり、
 古都の知られざる一面を語る

当社PR誌「三洋化成ニュース」に連載中

トピックス TOPICS	新着情報	プレスリリース	IRニュース	お知らせ
2014/09/05	お知らせ			PR情報更新(京を歩けば、研究技術情報、プロダクト・トピックス、新製品情報)
2014/08/07	IR			2015年3月期第1四半期決算説明資料掲載
2014/08/07	IR			第91期第1四半期有価証券報告書掲載
2014/07/31	IR			2015年2月期第1四半期決算短信掲載
2014/07/31	プレスリリース			サンヨーカセイ(タイランド)リステッド・ラウン工場に新テクノロジーセンターを開設



<http://www.sanyo-chemical.co.jp/index.html>

